書元数の子
十編舎一九作
2132
84

饗庭文庫
饗庭文庫藏書

81
特13
2132
81

青楼壹見數子自序

門を乃祝儀并後巻の
尾と称し巻の名弘
待獲ち刺さると成る心
地乃甚だと後乃婚と数

若旦那打ち
并解千俵くを指て
暗ろぐ陰を伸縮を丈
幕乃内の切仮家をし
抑くり寄と振く打巻

毛をとゝ蛙とび蛙とび蛙の天の
初なる石手の鯉乃鯉れ恋仕
掛け師の原宗子乃物寂ハ
茶屋の横ゝ乃冬ものゝ
糸ひけるゝ乃松子茶市神
紫苑乃実乃ゆゝ朝ゝ
ばゝり乃形ゝ言ゝ乃孔子
世をとゝ悔む心学藤まゝ
ゆゝ書二丁釋ゞ乃死ゆゝ
ゆゝゝ乃東ゝ経ゝ乃

[illegible]乃絵とば[illegible]と絵乃
中つ書て男ハて婚と書る。
夫婦ハ[illegible]と[illegible]初番
乃[illegible]なし[illegible]町乃
世界と海野[illegible]の様子

[illegible]一[illegible]乃長[illegible]
[illegible]乃[illegible]の[illegible]
数子し[illegible]子[illegible]

享和二壬戌孟春
十[illegible]偏舎一九[illegible]

一九

こゝの
よゝ
ゆゝ
ゑゑ
ゐゐ
おほろ
月

自画

男
阿
お
ふ
ゝ
ゑ
ひ
も
せ
す
京
都
書
肆
十
軒
の
懐
硯
を
第
五
中
表

素見敖子標目

第一 初會別榮乃雪麦

第二 狼虎の宴も茶屋

第三 淀鬼回去の生乃女冨

上件

素見敖子

十返舍著

第一回

行水の清き里八絶びて。去るも本乃水
ゆ有るべ。恋の為よ新吉原ゆ堰為る水乃
尻も押並て。緑流る書巻。拓く吸巻の
内梅回去ゆ頃と仲の廓ゆ頃と結ぶ花の沈て
紅ひ葉も茂し今銀の光輝く。智る色女
縁ゆし。婆の笑ゆ。熟れ回の書る而

とて。五坊の見世附。そでぐきの長ふ引ぎられ。
極楽浄土乃人をろ。あふさきさるさの吉中を
同ふ長ぎと扇もあれば。中ぶ敷に敷あり。是
乃ゆ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

へ送りてうるやのようなぐ
かつんぐ。おぐおちゝアトゆうむうてゐれむべこあるようなる
おきゝうひぐあるるのちへよぐれ
とゝとてのぞ
いそいるゆく 川 エていめくますいサアいくよぐむさん
コリャアぐてのろめくゝそゝぐぜ ツレ ふゝとてゝぐゝ。
ろんて吉の西ゝ。ゆきゃ柳屋のうきぐあゝアサアいくよ
トゆうるゝ。ゝうゝふゝちゃゝの男とうれゝるお侍
風流ゝとゝゝくゝゝくゝて出ゝゝちゝきゝん。 侍客 アノ正ゝん
ゆちるるのゝ。柳代いゝゝゐゝぐゝぐゝゝや ちゝゝ男 ヘイ 中なる
ざゆゝゝるゝ三歩でゝぐゝうゝきゝと 客 ゝゝうゝぐゝゝ
ぐゝうゝゝゝゝ。ゝゝ分我ゝ。ゝゝゝゝ

こちらのおいてん再考ぐちのいある 陸 ヤあ
ちの拍子がぴざとそうとぞていらアごう
てたよろんあーざ。おろーってんぞんざらでも
孫へ見人 倡 孫宜ぐりのいあろ 陸 アりおいらんべ
出へあとめそいるぐぞあの彼海をやメ
ていたてんめんぞ 倡 ソりヤアやたこぞ。合計三百
足おぞ孫へ見人 陸 イヤそんるらぞんおてらぐ
サアめろトそて出 陸 あてとられてあひよト

用あるけるあるとまいて人〈 ヤのこういあ
まかけがたろぞたた 陸 ていそ
若者 孫へ孫へ孫へ

ちゃうんぞめ〜あがりませトこの品さ初合のこゝろ
しるし 栄 アノ〜 五 むもとこちとさそんぎこうさん
うり ちゃうんこうぐこ 原 いとできませよ 京丈 おさらば
とあげまーやうトト 牛を見そは見そびちよつときこけそつぐ
をとぶ四まうけてひとくらちまーも
栄 アくうくトト むーやうまうふとちりゆ。あいうこのか
むーやうまうふとちりゆ。あいうこのか
いうんかうーぐりてぐちまこそをおうひ
さまそおうくも当りこそ当りこそ
おくられーさとふくこてのるれば
なんでもこのむをこ大きてくうり ぶくーさこ おりかこと。
いもでちのぶのさそうごろる。うろひやをれ

ちっひぐうろうをとをすくうと。見しやえびをや
五 ア弾つくくりかひそうせ ちゃす ハイお
さうるとあげまーやうをぐこめ〜あがり
ますせ 五 おくんうちの家で大きるうちちとあ
くかをぐういれぐトつるぐ〜。ぬるをとうてアン
をぐまりてるまぐいとむーやうくくこ
ろまをもをとうぐこちちまるか 因 きのこうまるいーつ
ちくーひれやーを。おうんぞやうーてうんなせ人
ぎんくふちまう ジャバジャん くく こうもん なつうくなむちん 家

ぐきれと　ゑん　ゴとこうーぐうけてあげませう　ゑん
りーぴきよ　ゑんうーゑ　ぜこぐいーや　ゑ　ぴこんぐ
いこぐーのよてよねぐかぎのまとこよ　ちやや女房
ろりやアーゑ　さんぐ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
人さ　ゑん　さゆうこぐ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑやそのぐいーやい　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

のゝ秋も矣とうつぐの文さ孫てんよびま
ゆるゝ出て来さうし 廿 ありがとうゴざん
ます 廿一 ちゃう。今ゑ少へよろしどつけてくる
ねし。今ゝでも出殆きひ形ぐトロゝしぶれ
ゝるおちゲしてチゆゝし 廿二 りゝ。ぶいちんゝもぶゆし
久ゐさんゆせ。ゲアおてんさんおまんまゝよ 廿三 サア
まりしどゝく トいろへんぐゝと。さうぐれがまろう
しつゝるゝれくゝるおいゝろ。おとひうそう。
三人そこゝろとゝそまろゝとゝがおさまりゝる。

今まで喚び殺きさるも。怨恨宿命と成。
所やの濱ゝるおゝく。一宗一主長月弟者。
亦人。生ゝろと筏しゝてる子
遥樂曲集相浄樂 遊撓掃 齒貴遊人
可歎倡妓鴛鴦 怨視無常千任邊

第二回

客五明 おるでゝるゝ。ちゝしこよひハ弟ゆ又きゆ人のゝ
とゝえておいゝんちんこくようゝざゝきくようゝびきゆ
ふゝんのようゝちでぶこゝんのちゝぎのゝ。おゝさぎ。そゝとのかびゝ
よこちよゝむちんでゝろげてゝるゝづぎのまゝおゝるゝく。夫ぐちをとゝう

すると、ちんごろうは、ありがたがり、ちゃうりんのまろうをとりあげ、
まろう 番形 おのれ おめへさんとぶんとうけうえ
四 いつゆうひごろ、ぞうさのめとのむと、それで、
ぞうさとのんごとてろうご 図のこれまで、こがれいす。
こりへおごーかんしートそでよりあふちゃうんぶら
ちんまつゆうやや。このかんと、きくのとさんのとりへ
りつてろてのおあるりぞふおぎろいーこと。
りへーかてきやそ。そのおぎろかのおをうん

ぎかへんーーー。ちろうーーーこうしておろうん
かうんーーとぞーしのさんよそーーろてきや。
コサかふふてそているえやくる 図 今めて
いまとトひろくつのおびれ 弟へのぞきくートあーとをいきく
こうるるあへ これゆうおろ 図 ひのはるひごろ。ろんこうよく。おいろうん
のーーおの孫ずーとおぎーこの 図 うをとはろ
せへ。おいーーアおろ孫へ 図 ろーーのさんがそよ
いまーーこ。こんこがさろまめちゃうそびはし

てぢんくうふぐりてきもつどぐるぷおらうんのと
きうでらてくてきもゆふうけきしつてこねづてぐ
うつぷつそうみしぐりてるらてぐりてうう兵
さんしゆしつあ【左の】コレてめぷちんとうふおぐしさ
ねしつ乃せきさんのとんくりてぷいとてこしだ
そそうでぷぐしきうつさうぷめんるうしし
ぷしつてきやぷうと人そよる肉西の祝こよ
そうまぷしやう【下】さ三ぎんくてすへでぐうて

まておうんなんさ
ぎんさ【函】のどのどうぷうそうはさぐる。
おしつあきう祝人すのと【ガ】うをうはさあ
ぎんさのこぐきのみちぐうとおつおく
そぷくのそうるしさどやあ祝へう【函】をれる
ぎうあぷぎんさあ指のの皮とちうこてぐ物
どんのぷうぎれくをうくつこうぐたうこう
てつつあぷ祝へうびぐうぐ【ガ】おうようう。

こんこぐぐびく　図　ぐびく　図　ぐびく　図　ぐびく

トこぐいまつがきと
しらけあい出てゆく　図　きの　やらまいまどごごこう

ゆんまぷいうんいごでゆかんしゅ　ぷ　おさぐさん

ちまつくぷいつてんそおいでかんし　コナトるきつ　きゆ

あくくしまんだこうるづて　横書　きゃゆうけんきんぷ

出てりとるもるくおいうん　ひさい大きくこどれど

りるこい。あいきゆくあるゆこ　ちこの内まてゆんあきま

ちぐぬれのきとこうくるちま　りのろうとききくとりり

ぷくくひおいつこぐすづいろゆくいこいいゆう

図　だあさんらるふとここいてまこ　横書　ぷ

あんまうおまんまこと　ぷくくこうぐぐ

きつけくこことここうくくくくえこきこうちくくとつてこきこ

のゆくこるくしゆ内ぐくくくもここうくづけてこうくくこてちり

図　きてゆア創の名部男ゲ　まここぐぐこ

いいく　横　石さんのゆうぷくんゆいておこんゆん。

せんぐもゆくいのおゆ出ゆんいくとゆ。石きんゲ

まゆんいくくんれどこうここゆゆまひつけ

ゆせこどおきんくくこうぷいつこここここちち

うんいこおんまうひつここぷぐあるんを

ろ。ろちもうんきゃくぶかこういそ。リヤア
くろくの風でおざんせのとあくよりは
るぞそいかざんせんろこんなよおちゆい
おんしくときゃア。それぶけのぷしゆらして
おろんあんしそれぐでできくせんろくなろ。
りんまておろんおんまるおめさんのようる。
むつりいおろくんかりくいゆでりいせん
ろそやくりつておろんあんしおろられ

ろそりいろそまるとりつそおころるくん
しそぱんくくてろろろんおんくこうろりゆ
きゃアおろくんまめくとうれしくおりつてあろ
いろろ。又ろ者来なくんくこうるりふく
ろろちゃアりゆやてくるりいせんりくんとうは
ろろちぐでくどのいろおとこいろいい四ゆり
そろ居のやろくろ 按 ナこてまりなくんせくん
ざんと トきゆのそうぐろと 四 よりそられろく

横 ソリハそんぞくさろ紀おあめ（きんよ）ぶ祈ち人へ
ヤさこさアぶ（ん）ておらんちんち人四ム
るものるひらいかんぶ 横 久ーいりへぶやァ
おざろいせんぶ紀よおれへーアいて 四 十二
ぶ（ぶ）ろ 女帝ぶ ゆうこのものと見へとと。おそ（こ）さるの乃
ら（ら） 数安といつこさアぶ祈へりんぶ 横 ゆんよぶび
くのこぶ（ぶ）おきのぶ（く）ぶんぶとぶ。おあへきん
よう外おやアこよろうよいさしいさ高人へ

おざんちんらぶひとともやいをへくく
くのこぶ（ぶ）ちりて（て）おろんちんへ 四 おれ
ちろうせぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶちーいえ、男（おとこ）おもいへぶろ。
ちんへのるものるよ紀ぶろ。こよろうふして
りへぶぶ（ぶ）ともいへのよ。そーて見（これ）ちまぶぶ。
の宮（おる）てもぶろ手ちんぶぶ高れ祈へぶ。ちぶ
ぶ（ぶ）祈へて見へる。ぶでよぶでもぶしろのわろ人
ぬけ（け）ろよきへ高ま（ま）。ぶ（ぶ）ろ（ろ）ん 安和（ぶ）ぶ高ろこるぶぜ 横

ふくしいよ。ろくそちやよしてゐいでなんと。
トかぢきやの方へ　かぢやようて　だいぶんそよみんし。おやへ
さんぱ。宝の神へりんぐ　四なぜく　横ひだり
ろ。三年目だうりのこだ。ろちよたぢとうせ
ぢんしし　四それぐころて。これまできさみへ
ゆろこうよ。利益とうけて　ろしてこど今
ごろくうけぐこてきそ　横ちあへさん
もつろくることうたなんきよ。そんなよ又

おんよがけろんきこてこあちざりいせん　四ただ
こでゆうのそ。おんよりけ神へでき　横それ
ても。おぢろんきそぶじよ。おめへさんのろうよい
ぢがつ犯いを　四だうあいろ。ぢきみ　横
でも出やあきめへ　横ろれこざんを
四そそんしてゐよがこくぐつく　横ろちぐれ
ておやものそうそ。それぐぬしのぢくざんを
四ヤよろしくやてうんなもへへ　横それぐ

とうてひとり孫とそておれとうるんをきゆ
人いいとうもおざんをそれをぬーやア。くは
ゐれられて。おあそひなんとごけがきくで
ざんをくうそのわれと代ぜ〜ちりてお
出なんをアやア。あんまう。ぬんまうけなん
ととアおざういせんる四〜こいとう〜
横それざうぜんどのへせんどのでまを出と
そのちゐれてあげい〜その代と。手め

ぢくりかておうんなんしるトくうせうふい
ぬのうずとびうえうる。ぬぎうまそくへいるれあるじの
ちゆうりうりもくへいるぢ〜まてぢびまんをおうぬ
きあくゐれべちりうんきアのれとのこここきろているゆぢをの
うちようれてかむうふまおすりろりくぢゆううこと。
家もおくてき四さそ〜きゆもむうとうすぢ。
うもくトぢそ

いうゐれらかくとつて。ぢりくでられてりく人
つて。コリャアよくぢもかゐれとのぢうぢくでは
ておきゆれ〜。ちまろておうめるりんでもう。
てうぐ。うりぢゆのうどとるくうぢあた

のまるひのぢぢと　よこせ。つよくよるりん
で。ぢろ〳〵。ぢまつ。ぢ。ぢ。ぢ

そのゐれちんさ。こアかぐらんやだらう。
トかいらんのまるのくまと
まりてのろくるの 横 ナまいだかややらう
いせん。とてもそんさ〜てゐれてあげへさとりん
でざんさ。ぢ〜ぷりよりうういせん。それもぬしる
ぶ。ぶあんりんとるる。ぢ〜ぷで。三十まい。うて
おちんりん〜トきゆのまるのさしまをとりてスで。
ゆるてゑのろい 四 アそんるる。ぢ〜ぷ。ぐ 横 てそれ
ようりうアおびとちんりん〜トきゆのかびを
ぐ〜ろ紙

ちんのそ〜ぐ〜ぢ〜ぢ〜ぢ

きんこのもの
今至らてこの智と云べき代あり て。
いろおの
呼倡妓が色男の口迫へ追て出者
いちやつぱ　あつ　ぱ　ぱ　ぱ
とぶ〳〵。その口ぶり
ぶ　ぶ　ぶ　

あげらァ 初 ヨヤ てらぐんよおかぐんすん。
ちのちらがよるのんよ。指とうんるきり
ちんしてそそんしてあしのあいぐすんを
図 ぬしのまう。蠅 邦 あしてはうひやをん 初
オヤヤ だらしいのよ ばうちとき 兎 えろるさん
ちちろ。ぎらぐちんしろさ 初 りんぐのよけ
いきる ばばとというぐらうて 図 コレ おあへいけ
ぎるんさろさのてアぐてるきろく 初

あんこのんさとんいしさ 図 ソレアんやるをへ
ぬどいろさのぬぐてく おのぐ。ぬるちろと
まぐ皮がむけてるく。のんをぐの意ぐの
とぐぬぐるるんぐろうてちんるろ
てぐへのてんちてアぐろのぐりきち絵。コレ して
ちぐんるぬぐけるせへトいきてちんを絵へを
るやちしぐ 初 さろ絵へぐをヲトぐきへんを
あへくぬぐをおきて いるきへんを
おびさしやる。 初 ゆしやアぐをんきろりやるへ

図 ヨれへすのとよんでこい 図 ゐぜへ 図 ゐぜく
らくてぐあるすのろ。羽(はう)があるア 図 それがでも
ぬしやア。なるとそくアおさちやんを 図 エて
やらまし。きさゐぐじやアヨろく稲へ(おもうまと)
らくくやうで。ヨろいすのまり 図 ハイあるさく 図 ライヨろくさゐら
コレこてのうちぢやアとんぐあとやをさる。
おいらアーちぐ。稲でるりんぐらぐてくぐの
こてアいいわへぐ。あんまりぐ 図 まろたさん

ぐあかさんまし 図 ヨろちやアなんぐら
まりいせん 図 イヤわりのまるちやア稲へぐ。
今やりまさそそわるぐこのみのしとそそろ
そしぐらやアぐろくそりやアぜんぐんなん
くでもいくらぐ。ゐぜ(きや)あるのきらゐへ西で。
ゐうまやアぐら稲へエ。(ちや)ちろもしろぐをと
出して。ゆうてるうちやア。おいらぐ女房(かみさぐ)ぐ。
その女ぐとなるもあいくよだるゐ

こうしよがうぞうされるおぢやア私ぞんでも
ゆうまだでアあんぺ。あれがあいまぢ。こゝ人
ひれぢろうさきさろもん 図 十二 それんそそふ
いつまでもござろうまもね 図 イヤ〳〵。まぢ
それだろうぢやア私ぺこんなことぬらちやア
ぐろ〳〵。きのうもゆうべ。ゆあべぢろ〳〵
まぢろうんぐもりつそ。ふりつそ。いろぢの
ぢのし。ぞうさろるしいやアぐろぐアりやア

おろろ〳〵。おいふぽあてつけてぬらしとのぐ。
コレヨまだろうるぐろ。汚者さるしいつちやア。
神でこそあれ。いろぢのぢぐのぢのし。そんな
いやしいとぬらしとぬらおぢやア私でそそそ
ぐあきれしア 図 十三 それんぺおめへさんのとて
でんぢぐろうまもね 図 イヤ〳〵。おいふぐ十てふ
ちぐんぺ私ぺこうしそぐ〳〵ろうんぐろう。
それでぺあんるこしとぬらしとのぐぺんでも

このあうとぷうてゑ孫くんやアがつれわへ。
いまごく〜トむうやうまアきむ。ちうあんまうらのと。
むうふのぎ〜きえまうるぶ。とうやうさせて。ぶう〜ゆうぐ〜そのく
いれあのぐぶうう〜るうぐ。とういちめしぐろ〜ぐきて。ぶんそもきて
かう〜て 若 きまうる〜てアゆうまえ。そうりせし
きまうう トうう〜ふ出ぶおいうと 初 やろ母(むか)さうん。
ゆうておうんるんし〜ぷんるぐうしいきまし人が
おぐんせんる 次 ヨうちやア浜さんのことう
し。おうう〜し〜 初 そんさ。浜さんぐどのあ

いぐのこと。ぷりて。孫があてつけている人
しうとあのきまく人ぐうそうまあへのて
のようるうて。ちう〜とそなんきそう
ヨうきやアかし。ぐんぐんぐうるくてなうい
せんぷんるふうひきる。おぐいさん〜ぐれが
いうとう〜いそもうんぐでうんまあんるぐう
しいきまく〜ぐんかぐんせんよ。そのうまう。
こういうのあうるまぐ。ひう孫うして

おいてはなりがたいしゆうとこゝろがけ
憐むべし。此高人おうな別邸の有
とりつれうりおうりて一家まさと。
乃ち高まりてこれかへの下に知るま
中うゝどとしもとんこゝと移ゝ巳。
孫ゝる忙しこゝど。婿もこゝどろん
乃蛙からゝゝゝゝゝゝゝゝの毒
せんぎんなうう。新宅廣庭乃

家人湯者がひゝゝ藤を悔てに
請をゝゝど

虎載千里皇經羅一重中
無樂何於客偶然有禅上

第三回

おかてざゝきの
きやく家初名 吳吉 トびん ゝゝゝゝのまるちりめんのまゝぎ姿
やゝんのこはきもゝのそゝ飛 春雨 きやるゝまでびれてきてこし
とゝゝさらるとゝゝゝゝゝゝゝゝ

きゃくのまらうとたち
よむなさるてたらい 医 ゆ雨さんやうじとごーて
おうんなんし 小 ちゃ りゃ。今ゆで千里さんや
ちゃ
ちゃ
ちゃ

ろへトゆくとき ふとまる 栗 ナニひとくちだろうのめべい
トおとうんぐのこさておらろ ちゃろくとうてのむと 夷 ちろ〜ぽこておい
ておろんなんー トきゆくぐのくらけとおとろろひ
ん をいてるまいこの仲ちゃろくろろろ あいくときるあてちゃ
をのむかのるれべそれをとろて ひとくちろのこをこーのこて
ちゃろんをとトみおをころべし きゆくみきのあるおいく人いて
いでそのあとのむのるりのまぬいおろくみこのるきせここ
ろんぜんるりさくーゆ一九こみのはとりつこゆーこるまいこ
ろろのこさーのちゆとのこうるゆ一人もそーこ夷く一人の
ちんぞろ〜ろのこうけのちゆとさもうまそんのこうをこ
ーてこのゆこと〜ろるおうてうきろ夷ー仕ーはゆ〜ろて
ふきるるろ〜こよんろるーゆ それゆべるろこあいてよるかれ
なきるよりてろくのごくるるろのぐんいそろぐ〜ーえん

ぜうそびゆうぶのそこるる 夷 こうれぐふ 栗 ろふ アまおいん
ん ちゃ〜ぐまろ〜ゆく 夷 ごろくきゆや 夷 アノラ。おめく
のこで 夷 なんぐ。ごろくきゆや 夷 アノラ。おめく
さんおでぐぐのりのぐんをぐ。さろきのりのと
ちろ〜ぐ〜ておろんなんーうさ 夷 さろきのこア
なんぐる 夷 ソレよんーうさ 夷 ぐ〜ぐ。ゆとこ〜きらを〜。
ひよんーコウ。ぐろ〜ろうきりのぐんと 夷 系こ
これろるトさぐこぐんのトろ〜ぐて
おからゆやまのむけりの 栗 おでぐぐの
りのぐ〜いろろ。なんぐ〜おりろ〜ぴろ

るがやのたんたえくどのうい〳〵 [夷] ふる〳〵 [景] コリヤア
ぎてよらぢでぶさらむくなる〳〵とよりふぐ [夷] ソレハ
らく〳〵いしぐのつとさいろちくおよんなのもる
[景] アイトガシヤ ヨウこらるおうろんもちなたよりまそ [夷] モシヤ こな
おいでなんとゆやア。銀まるさるをとるろて。お出
なんとさえ [景] さとふさ [夷] うんのんさんかハ
アノ影がうんとおりいとが。ゑりやアぐれぶきん
まとうぐさんせえ [景] さんういのんぐうんる

ゑとのつてきてゆりやをハ [夷] ゑとさしやア故
うろうくのとれうんのんさん〳〵あうい〳〵ぐま
アノゑれざーとあつて。ちまときりておうい
まだいろそこうくて。ろりいせちんぐ [景] ヨヤ
るこ。あれがこ見人のりのろ [夷] それでも祭。おし
て。まりてちのつをさきやア。よのぐさんとぐま
ひようく〳〵あの人さんぐ。飯ゑらるでとちぐろて
ちろうぎい〳〵。ぐんちへるきろれてきまつてきふ。

栗 ノリヤアノ こゝろをしてもぢめくらろちぐ気
ちぐくよやろ〳〵ぐろちぐぞころされよ
夾 ヨさろやアぢんでもよくざんをよ 栗
やうぐく 夾 おめくさんのようるちろ〳〵ぐろ
されいまりやアなをざんをトはいそはさやの むさいとれく
でしてこれよりめ〳〵でらちがおぶれてる 栗 よくちりつてんアやアさむ
いのぐやア移くおめくのようる。うりくしい
くのそべよるりんぐろ。それでこんるよ

あるくのぐ 夾 シやぐしゆうざんをぶらしいのよ
しこれとちるおりひきろそもろ。 栗 おめくいとんぐ
よしきそもこでぐろ。
ふろそろのぶもとろはいてやりちくろみぐ
夾 ドレぬしのくもとおうせなんしぶぐこんる
ふぶやせそもいでやうんをぷうるぐくゆびぐる
トきそのもびとひろうきりしぐんでろう。 栗 アイタ
いろくゆしてのちよハぐろ〳〵おろうまりるト
夾 うきろ〳〵うるそぐあてくろらぶぐてぐスしゆろ。
きぐでるしろるぐをろうちきもくのゆびとひも
ろうまりしぶちやそびるもをるやんいうでもりみぐろろる
ちるしろう。まりしこれるいろ〳〵あう。さくしゆ一九ゲもびと。

ひやうまいこうろのうちよりおかまあたまのぐ〜おうひのかぶおしぐきみがべこうろのよりつげでまそ
しろいねうとぶめしんうちでからうん 与こき えるさめさん
けうちからうとめうとしまそ
きんきのこと。ろ居さんゆをみかいしうつそ
ちうつそなんしうちる 医 よとぐもさんちうつ
しおへうかんしゆ 与こ とあうてゆうりしゆう
医 コトナく トよびいれるすべてそしとしるものとむやうふ
よびこうこげうはきゆのおとこふりとうそれ
てうるべしぶんでもらの
きやしぶんぶちかりてうう 医 りしるこのおうこのちう
人ゆうつそおめくさんがよしゆ似てゆるんす

しうてンキ〜 果 ぶれまるゆ御さんまう 医 いうへ
与こ コトナ ゆしぐスゆ出さんまいしうんゆうう。
ちるふぶんさそ。ソリやアそそそりしぐゆぶそれ
うしきそちあげゆんん。まそるさんぐうそ
おめくさんゆやアキ〜 果 こんなおりうへく
うへうち移くでぶるりんで 与こ ゆんちふ。ん
ぶきて出らうぶいし。おりしうへこぐおざ
アいまと 果 うしこまそキうこ 与こ えるゆさん

きさのこざんきとときめくよりきこえるとさいつけてきたのだ
きき 栗 おいらが 仏さまらんぶ 居さんとうまの
人のまとう 医 そうざんとよこづもさんが。
りうそうれてぬかんきときめくんざんをんは
ねしくらうすくらうてもいつよりよく
仏さおいでかんきうこれらうちと
よこづもさんとりんまがんかるはりり
ぶんきとそうがぐうぶぐうぞぬしもんきとて

まどうきておうんかまんと 栗 きれさきとき
医 おぐきしかんきとなるく 栗 ぐきさきなく
きうこんかしこまぐるぷぐこかりんて
りうやしやく 医 りんこうきうくぷうれい猫人
トうはきやうて 吉男 ハイおむりくてぐきりやきと
きぐくこをえ
栗 うまくこいのあるさんくおきそうく 吉男 こぐ
今おきうくとかきうてもぶかるんきて 医
ぶきふおりてかんをうぷこんこうきうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を附金ゝて梁塵の後篇五書
あらゝ世間を賢る入きこの〳〵

百家貴報子後篇
夜半冷酒　全一冊

十返舍戯作孝春出板

まもなく報子の後
いまゝゝ加藤あり
たゝいとの法
女ゝもちのおゝ
まゝゝゝ
一のみしらもち

雪華園

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらはすうれはしきことなれど
ちはやぶるかみのいせ
うちなびくはるのはつ紙
あかるくこゝろのまゝとかくよ
のうたはけのひゝはつるとかの
よろこぶるはるの十

あしたとをくかのぬしゝ
さきあるかのつきほしなりい
そのさきをとをそ
さくらやそ
大きゝ乃市女去

蘆

後序

酒も一玄樂の鈍子限りいざお納めきう
あげてし。自ア度拾ろ子へ呑そし上戸色男
ものを遊拾乃乗酒ろ分ものを拾てこる。
くり利の酒も内所のし。ひけるもの新和
ぐん。よく乗ものを乃ろ名の無拾酒子。者の
世酒ものを燒子。ア極ろ馬ものをりはろ

世ものを燒子。ア極ろ馬ものをりはろ
のし数のし。嫌ものをてなつぐくものと。命ものを
ぎいろ
ものをろ可役ものをり子

駿陽
一四馬命一指法

戒春十偏合戯作目録

青楼狐窟這入　全一冊出来

吉原談話　同

青楼松之裡　同

倡客嚢雙子問　同

饗庭藏